

評価シート（年度評価）

荒子川公園の管理運営状況

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者名	名古屋市みどりの協会・大島造園土木グループ		
主な業務内容	荒子川公園の管理運営業務		
施設の所在地	名古屋市港区品川町二丁目 1 - 1		
評価対象期間	令和7年4月～令和8年3月	指定管理期間	令和5年4月～令和10年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項
管理体制及び協働	1 管理体制	職員配置	○	公園の特色に合わせた園芸福祉活動について新たに2団体と連携するなど積極的にを行い、市民活動の幅を広げるとともに公園のPRも行った。
		緊急時の体制	○	
		人材育成等	○	
	2 協働	市民等との協働	◎	
維持・管理運営等	1 維持管理	園内清掃	○	植物管理では、クビアカツヤカミキリの対策として、日常的な巡回業務は元より薬剤樹幹注入を実施し、被害拡大防止に努めた。また、複合遊具の改修、健康遊具を設置するなど安全安心、快適な園内管理を行った。
		建物・設備の管理	○	
		保守・点検・修繕	○	
		植物管理	○	
		管理水準の維持	○	
		関係書類の調製・保管	○	
		2 運営管理	利用者アンケートの実施	
	利用者ニーズの把握と反映		◎	
	利用者サービス向上策		◎	
	接客・接遇向上の取組み		○	
	苦情・要望に対する適切な処理		◎	
	個人情報の適切な管理		○	
	3 この施設特有の管理	緑の普及・啓発事業への取組み	○	ラベンダーで多くの来園者を楽しませるとともに、ラベンダーの維持管理についてボランティア参加型としたり、ラベンダーを使ったイベントを開催するなど公園の特色を生かした運営を行った。
		めざす公園像への取組み	◎	
	4 魅力増進・利用促進	魅力の増進策	○	また、ラベンダーフェアや桜まつりなどの大きなイベント間にBAKKAMARCHE等のミニイベントを開催することで継続的に来園者を楽しませ、集客力向上を図った。ガーデンプラザ入館者数は321,309人（R6：308,414人、前年度比4%増）となった。
		イベント等の実施	◎	
		講習会等の実施	○	
		利用者への広報・情報提供の実施	○	
		利用者数の増加	◎	
	5 収納金の処理業務	現金等の取扱い	○	
		関係書類の調製・保管	○	
自主事業	1 自主事業	事業計画に基づく自主事業の実施	○	計画よりも多くの収益還元を行い、収益還元金を利用して、公園利用者の声を園内運営に反映した。
		集客対策への効果	○	
		自主事業の収支及び還元	◎	
		便益施設の管理運営	○	
収支	1 収支	経費節減策	○	
		年間収支	○	
その他	1 その他	法令・協定の遵守	○	
		事業計画との比較分析	○	

【総合評価】

所管局のコメント・特記事項等
荒子川公園の特色であるラベンダーやさくらで来園者を楽しませるだけでなく、ボランティア参加型の維持管理やラベンダーを使ったイベントの開催、ライトアップの充実など公園の特色を生かした運営を行っており評価できる。また、利用者の多いバーベキューのトラブル防止に努め、看板の設置等、予防的な措置を行っている。 特に気を付けていきたい樹木管理（クビアカツヤカミキリの対策）については、今後も園内巡視に注力するとともに適宜、必要な対策を講じるよう期待する。

施設の現状

荒子川公園

施設の現状

施設概要

荒子川公園は、本格的都市緑化植物園を備えた総合公園として昭和54年度より整備を進めてきた公園です。園内には、ラベンダー園、日本庭園、サングガーデン、多目的広場等のほか、学校緑化、生垣、公園樹・街路樹、地被植物等の見本園があり、家庭や学校などの緑化の参考となる各種の樹木や植物が植栽されています。

また、荒子川公園の核となる施設として、荒子川公園ガーデンプラザが、市民の緑化意識の啓発を目的に平成5年4月30日に開設されました。館内は、緑に関する相談・各種資料の展示・講習会・研修会の場などの普及啓発施設として利用されています。

市の収支状況(千円)（7年度決算見込み額）

支出			収入				
指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	利用料金
119,456	-	119,456	200	-	119,256	119,456	50

特記事項

平成18年度から指定管理者制度を導入。平成22年度から指定管理区域を荒子川公園全域に拡大。

管理運営指標の状況

取組状況

指標	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
講習会受講者数	人	874	797	757	766
入館者数	人	276,942	271,125	308,414	321,309

特記事項

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費を記載